

山野草の育て方

日時 6月8日(日)
午後1～3時

講師 北海道山草趣味の会
会長 村田 悠治氏

定員 50名 無料

病害虫の防除と農薬の使い方

日時 6月22日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐藤 文男

定員 50名 無料

親子で楽しむ押し花絵づくり

日時 7月27日(日)
午後1～3時

講師 柳川流押し花 谷口 燦子さん

材料費 500円 定員 親子30組

持ち物 ハサミ、ピンセット、文ちゃん、おてふき。



ホ キキョウ科 花言葉…忠実、正義
 タ わが国では北海道から九州まで自生していますが、蛍の飛び
 ル 交う頃に咲くことからとか、子どもたちがつかまえた蛍を、大
 ブ きな花の中に入れて持ちかえるところから名づけられたそうで
 ク す。
 ロ 花のかたちが釣り鐘状ですのでさがしてみたらいかが・・・

△▼△▼△ カイガラムシがやってきた △▼△▼△

カイガラムシは種類が多く、各種の草木に寄生し茎や葉について汁液を吸います。

また茎葉にたまったカイガラムシの排せつ物を栄養として繁殖するスス病が併発すると、黒く汚れて気になります。

殺虫剤を体にかけても成虫ではアブラムシやケムシのように死なないのが一般的で、普通の方法では駆除できません。

◎スプラサイドやカルホスなどの殺虫剤を1,000倍に薄め、風の無い晴天の日の朝方か夕方に行なうか、日中に行なうのであれば、気温の低い曇天の日をえらび、一週間～10日毎に3回くらい散布して駆除してください。

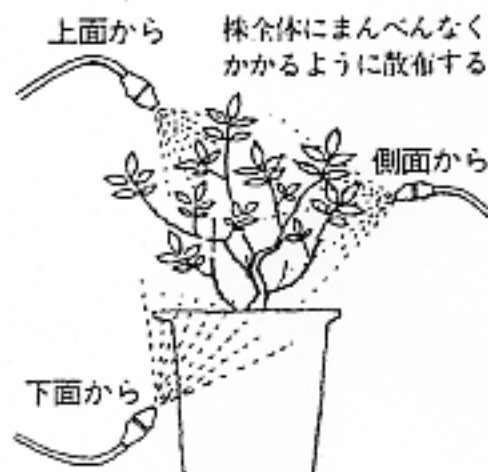
《薬剤散布時の注意》

◎薬剤を使用する前には説明書をよく読んで、薄め方や使い方をまちがえないように気をつけてください。

濃すぎて薬害を起こしたり、薄すぎて効果があがらないことがあるので注意が必要です。

◎マスクやゴム手袋、長袖シャツ、帽子などを着用し、薬剤が直接肌にかからぬようにし、作業後は顔や手足を石けんでよく洗いましょう。

薬剤のかけ方



薬剤の保管場所



バラの手入れ

6月の中旬になりますと、旭川地方もバラの一番花が咲きはじめます。バラは丈夫な花で、四季咲きですと放任に近い管理でもこのあとつぎつぎに咲き続け、10月頃まで楽しませてくれます。

また、世話のしがいのあるのもバラです。花の大きさ、咲かせる時期等手入れの苦勞にそれなりにすぐ応えてくれます。バラは育てる楽しみもあり、華やかで深みのある花です。庭に数本試作してはいかがでしょうか。

手入れのコツ

「剪定」 バラは咲き終わり切らずにおいても、わき芽を伸ばし次の花が咲いてきます。この場合の花は小さく貧弱なので、大きな花を咲かせるために剪定をします。バラは枝を切ってから45日程で花が咲きますので、このことを計算しながら7月下旬に剪定しますと、9月中旬頃バラの最適の季節に咲きます。切る位置は咲いた枝の長さの中間くらい、上から切る程花は小さく、反対に枝の根元に近く切る程大きな見事な花が咲きます。

これから7月、8月と咲き続けますが、真夏のバラは寿命が短く楽しみも少ないので、思い切って7月下旬に剪定してしまい、秋の開花を待ったほうが立派な花をみることが出来ます。

「肥料と土」 バラは良く咲くといっても、細い枝や古い枝には花をつけません。いつも若い枝に更新し、活力のある株に育てるために肥料分が常時効いていることが必要です。肥料が良く効くためには、根が元気に働くような堆肥分のたくさん入った通気性のある土を作ります。春先に株の周囲を深く耕し堆肥分を十分に入れ、油粕など有機質肥料を施し土とよく混ぜ合わせます。以後20～30日に1回化成肥料（花の肥料等）1掴み、株の周囲に振り撒き水をかけます。

「病害虫」 バラ作りで最も困るのは病害虫です。

害虫はアブラムシ・ダニ・ヨトウガ等で葉の裏、若い枝や幹に密生します。短日時で増殖しますので早めに虫を見つけだし、殺虫剤で駆除します。（スミチオン、アディオン、テデオン等）

病気ではウドンコ・クロホシ・ボトリチス等の被害が多くみられます、雨上りで湿度が高く風の弱い時に大発生しますので、この時には特に念入りに殺菌剤を散布します。また朝露が残るような季節になりましたら、予防のため7日毎に薄めに散布しておきます。（ダコニール、ミラネシン、トップジン、モレスタン等）

植物を育てる基本—その2 ルックスとルクス

ルックス、良く聞く言葉です。そう、日常での会話では、見た目はどう映るか、という見栄えの善し悪しという意味に使います。英語のlooksを借用して日本的に使っている言葉ですが、このlooksと同じような発音をするルクスというのがあります。こちらの方は光の強さを表すluxで、植物のルックスはこのルクスで随分と変わってきます。これ、駄洒落の部類ですね！

植物の生育には光が必要な事は誰もが知っています。特に体に葉緑素を持っている高等植物では太陽からの光線を生きるための拠り所としていて、光が無ければ生きてはいけません。その光の強さを表す単位の一つが lux なのですが、使われる割合にはその正体がいまひとつ良く判らないのがこのルクスで、ルックスばかり気にして大切なことがなござりになっている人間にも通じるものがありますね。では、ルクス (lux) とは何者か？

1ルクス=1カンデラの光源から1mの距離にあり光束に垂直な面の光度

何ですか？ これは？

1カンデラ=1燭光 (1769℃に熱せられた断面積1cm²の白金るつぼの内底の光度の1/60)

???！ つまり、プラチナでできた壺の底を1769℃に熱したところ、熱で赤くなった。そこで壺の内側の熱せられた部分を1cm²を切り取り、その明るさを60分の1にしてから1m離れた所を照らしたらそこが明るくなった。その照らされて明るくなった所がつまり1ルクスなのである。お判りだろうか？ ？・？・・・？ そうですか・・・？

学者とはなぜこのように面倒くさいことを、いとも平気でためらいもなく言っているのでしょうかね？ 早い話は、蠟燭の暗い灯りと同じ事と思えば気が楽になります。現実に例えると理解が早くなる。

夏、晴天下の地表面は100000lux 明るい曇天の地表面は30000~50000lux 暗い曇天の地表面は10000~20000lux 晴天の屋内北窓際は1000~2000lux 晴天の室内中央部は100~200lux 晴天の部屋の隅が10~20lux 満月の夜の地表面は0.24lux と行った具合ですが、一方、植物が健全に生育していくのには必要なルクスはというと、種類によってかなりの差がありますが、一例を挙げると、

キウリ 50000lux トマト 70000lux スイカ 80000lux イチゴ 20000lux

コチョウラン 20000~30000lux カトレア 25000~35000lux シンビジューム 60000~70000lux ミルトニア 15000~30000lux シュンラン 10000~13000lux などです。

このような数字を見ると、私たちの植物を育てる環境のうち、室内園芸と呼ばれる分野は明るさが極端に不足している事が理解できると思います。特に、北国の冬期間の部屋の中は熱帯花木が花を咲かせるに必要な光線量を確保する事は至難のことなのです。冬期間の南向きの窓際は直射光線でないかぎり光量はせいぜい15000lux位しかないからです。

植物は光量が少ないところでは健全に育たず、花が咲かなくなったりするばかりか病気にかかりやすくなったり、虫がつきやすくなったりします。葉の色も薄くなり、体ばかりが伸びてモヤシ状になりルクス不足で、それこそルックスが悪くなります。植物の種類によって差はありますが、健全な生育をさせる光線管理は日焼けしない程度の強い光に当てながら育てていくことです。